

全国腎臓病協議会理事

榊原靖夫さん

腎不全・透析患者の現在の状況

私達は人工透析をしている患者です。全国には32万人の透析患者がいます。私達は腎臓機能が回復することはありません。移植でしか助からない病気です。それでも私は透析を始めて22年目ですが、この様に元気に生活をしています。

私どもは1971年、「いつでもどこでも誰もが安心して透析が受けられる」を理念にした患者会を結成しました。皆様のご理解・支援のもとで、それなりにしっかりした制度ができて、公的医療費助成、身体障害者手帳の交付を整備させていただいたことは感謝したいと思っています。ただ、人工腎臓が全国に100しかないのに患者は倍の215人ということで、透析を受けられる患者が選ばれる時代がありました。透析を受けられずに亡くなる方がいた時代を経験しています。私達は、1週間から10日の間に透析をしないと命が亡くなります。現在は週に3回、生命維持をするために透析をやっています。私達は患者会活動を通して、ご理解と支援をいただき、今はこの様に社会復帰も可能になっています。これからは、この事に報いるためにも広く社会貢献の活動をしてまいりたいと心しています。

私が最初、ドクターにいわれたのは、5年くらいの予後でしょう、ということでした。しかしその後、22年、こうやって元気ですが、透析患者は高齢化が進みまして、高齢化といっても超高齢化です。透析患者の平均年齢は67歳、新規で透析を始める方の平均年齢は69歳です。ほとんどの患者が高齢者ということで、新たに大きな課題を抱えています。週に3回は透析を受けなければならないのに自力で通院できる患者は少なくなっています。通院送迎の必要性が高まり、また、家族が送り迎えをしなければならない。そういう方がたいへんに多くなっています。

私達はいろいろ活動していますが、透析の施設が送迎をしまして、先行きが不透明です。高齢化が進んだために介護が必要になっており、当面の課題は通院と介護の対策、それに災害対策です。災害にあっても透析は絶対必要条件です。昨今、災害が増えていますから、緊急の大きな課題となっております。

先ほど、川田龍平先生が取り上げていただきましたが、ブログで「透析患者は自業自得なのだから、自費で治療しなさい、それができないならば、殺せ」と、こんなブログが出ました。全国に波紋が広がりまして、炎上しました。これに同調した方もいたのも事実です。また、聞くところによれば、医療関係者でも、納得された方がいたようでして驚いています。それを川田先生が厚生労働委員会で取り上げていただきまして、私達もありがたく思っています。これは、障害者、高額な医療費の負担をしている患者たち、透析患者に限らない問題だと思っています。JPAの理事会でも早速取り上げていただき、政府に要望書も提出していただきました。透析患者だけの問題ではないのだと。社会的弱者が攻撃されるという風潮が日本に広がりつつある。たいへんに大きな問題と思っています。私達はいまの制度のもと

で生活させていただいていますが、今後とも制度がいかに継続維持できるかが、死活問題です。国民皆保険、公費負担医療費助成制度をぜひ堅持していただかないと、命にかかわることになってしまいます。

国民皆保険、公費負担医療費助成制度のもとに生涯にわたって治療が必要な、透析患者のみならず、誰もが自分らしく生きられる、自分らしい最期を迎えられる社会となるよう、他の難病患者団体・障害者団体の仲間と私ども透析患者、腎臓病患者の団体はこれからも真剣にこの問題に取り組んでまいりたいと思っております。